

06.11.

もったいない

市民と議会

山陰歴史館の修復と市立図書館、美術館の増改築に23億円？

新市のまちづくり・「文化創造計画」に夢を託せますか

新市米子の「合併プロジェクト事業」、「伯耆の国よなご文化創造計画」の動きに加速が見える。この計画が、どれだけの市民に受け入れられようとしているのか。
市民の視点で、行財政改革と市街地活性化の両面から野坂市政と事業計画を追う。

どんな投資効果があるのか

この計画の基本理念は、

- ① 文化の情報発信
- ② 文化の創造
- ③ 文化の育成・・・とある。

基本計画に、

ネットワーク計画・人材育成・史跡保護や施設整備等がある。

この総事業費は約三十六億円。

事業費の主な概要、

図書館・美術館の増改築

十六億七千万円

山陰歴史館の改修

六億四千万円

古代の丘整備

九億四千万円

ネットワークシステム

三億三千万円

この「計画」に、市長は「新しい箱物は多く費用がかかる。既存の設備、ある施設をいかに効率的に使うかという観点」と

説く。既存の施設に多額な金をかけても「一升枧に二升は入らない」という現実問題がある。

山陰歴史館の現状

市の文化財指定とはいえ、元は庁舎建築物。展示空間を欲張ることは無理。七万点余の資料が未整理のまま眠っている。

「死蔵」の施設との批判も。市史編さん資料の保存場所も危ぶまれている。六億円も税金を投資する効果は何か。



市立図書館と人口規模

「施設の機能は最低」と行政も認める現施設。米子の人口規模に見合った図書冊子数は五十八万冊。現状は二十三万冊。

鳥取市、県・市の二館で九十九・五万冊。拡がる都市間格差。

美術館と一体の増改築に十七億円の税金を使って、冊子数がどれだけ増やせるのか。



中心市街地の活性効果につながりますか……市長は、「今の施設も歴史・文化の重みがある。市街地の活性化につながる。」と説く。市長と同じ考えで中心市街地を楽しむ市民、外来者がどれだけ増えるだろうか。（駐車場も無い山陰歴史館・借地料広場に囲まれた市立図書館）

「同計画」に、市長の行財政改革の理念が見えない。行財政改革は、「最小の投資で最大の効果をあげる」ことにある。税金を使う額が同規模なら、「中古品」に使うより「新品」を選択する方が「生きた税金の使い道」ではないのか。

移転・新設を求め

中心市街地再生と人口流入増加へ

米子城跡が国の指定文化財になった。城跡への市民の関心は高い。城跡を背景に、湊山球場区域の土地再活用が関係者から浮上している。湊山球場は、米子城三の丸跡。

ここに、「中古品」に多額な税金を使うより、二施設を移転・新設し、面積も倍に広げ、他に「文芸伝承館」なども配置して、老若男女、外来者一同が癒しを求める歴史と文化の拠点「知楽の森」をつくる。

中心市街地に、文化の核をつくれれば「彫刻ロード」も他の回遊コースも映える。市街地の外来者人口も施設の魅力が備わってこそ増加する。

今が、チャンス。「合併特例債」という有利な財源を活用する機会はまだとない。